



陽気だより

図書出版 養徳社 〒632-0016 天理市川原城町 388 TEL 0743 (62) 4503 / FAX 0743 (63) 8077

養徳社

検索

昭和38年1月号から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で66年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

孫の代に効能の理

―昔の信者の子弟たち―

高野友治

(昭和三十八年当時 天理大学教授)



一

昭和二十四、五年ごろのこと。東京の新宿の宿で聞いた話だが、新宿の成功者の一人に、クレヨン(絵具)の製造会社の社長がいる。

宿屋の若主人が町内か何かの関係で、この社長さんに会うのだそうだが、いろいろの話の末に、この社長さんの親は、岐阜県の某大教会の初めのころの講元の一人であった。いよいよ教会になるとき、別の講元さんを立てて会長さんになってもらい、自分は教会のためにいたらいいのだ。明治二十九年の秘密訓令の後、教会の経済が成り立た

なくなり、教会の経済が立つために東京に出てはたらき、教会のためにはたらいたものだという。

この話をしてくれた宿屋の若主人も熱心な信者で、その後、教会を設立している。

のちに岐阜県の某大教会の人に、新宿のクレヨン会社社長の話を聞いてみたら、今も教会のためにはたらいておられるとのことだった。

二

一昨年の秋の大祭の日、天理駅の前で六十歳ほどの教会長さんに呼びとめられて、西江州の布教者・澤田弥蔵の子孫の話が聞かされた。

「あのころ、大津に教会を作るいうて、弥蔵さんが何千円かの金を借りたんです。ところが、当時の滋賀県の知事というのが天理教ぎらいで、なかなか許可してくれなかった。その間に金はなくなる、弥蔵さんも逝なくなってしまった。弥蔵さんの奥さんは、それから死ぬまでかかって、夫が借りた金の返済のために骨身を削って苦勞された。そして、とうとう返済してしまつたのですが、その息子は、母親の苦勞する姿を見て、天理教から離れてしまった。

孫たちは、その後にも生まれたのだから、天理教のことは何も知らない。この孫がいま大津市で計理士をやっています。たいへんはやるのです。金がどんどん動く、不思議なほど景気よく、どうしてこんなによくなるのか」と孫は不思議がっているとのこと。爺さん婆さんが、世のため人のため神様のために、はたらかれたその効能の理が孫

の時代になって芽を出したんでございましょうな」

三

これと同じような話を以前にも見聞いた。大和の竜田村の熱心な信者だった乾ふさの子孫をたずねたときも、同じことを感じた。ふさの子孫は、ふさがあまりに熱心で、百姓する暇がなくなることのために、道から離れた。昭和十年ごろ私が訪ねた時は、戒下かひげの小路から離れた所に、新しい家を建てて住んでおられた。

月刊『陽気』

定期購読受付中

お 店まで買いに行くのが大変。忙しくて購入するのを忘れた。定期購読はそんな手間を省きます。

毎月20日前後にご自宅宛に発送いたします。(例・6月号は5月20日)

定期購読料金
1年分…3,420円 (送料込)

半年分…1,710円 (送料込)

購読に関する問合せ先

☎0120-920-398 養徳社 業務窓

第5回公募 養徳社エッセイ賞

作品
募集中

テーマ 「あの日あの時の味」

どなたにも、「思い出の味」があるだろう。

遠足の弁当、運動会の昼食。初月給で思うさま堪能した、「心ゆくまで食べたかった物」。デートで味わった、「二人だけの特別なご馳走」。結婚して初めて口にした奥さまの手料理。

あの日あの時の「思い出の味」を、どんな状況で何を食べたのか、お聞かせ下さい。なぜ「思い出の味」なのか、教えて下さい。

選者 出久根達郎(直木賞作家)



募集要項

- 枚数 A4判400字詰原稿用紙8～10枚
 締切 平成27年8月31日必着
 発表 本誌平成28年新年号
 入賞 1等 正賞/トロフィー 副賞/10万円(1名)
 佳作 正賞/トロフィー 副賞/3万円(2名)
 応募 郵送のみ(メール・FAX不可)
 備考 未発表のものに限ります。冒頭に、応募作品の題名を入れてください。原稿末尾に住所、氏名、所属教会名(天理教信者の場合のみ)、職業、年齢、電話番号を明記してください。なお、応募原稿はお返しいたしません。
 送り先 〒632-0016奈良県天理局私書箱15号 養徳社エッセイ賞係
 問合せ 養徳社TEL:0743-62-4503 FAX:0743-63-8077



天理プール西側(旧東海詰所跡)

Facebook で最新情報をチェック!
<https://www.facebook.com/yotokusha>

また、同じころ、滋賀県堅田町の前川亦吉の宿をたずねたときも、このことを感じたものだ。前川亦吉夫婦は、本業の宿屋をそっちのけにして、お道のおたすけに奔走した。今の越乃國大教会の道はここから始まるのだが、亦吉夫婦は、そんなことで貧乏したもののようにだ。その子供は、近江八幡に丁稚奉公に出されて苦勞したという。しかし、奉公から帰って、私が訪ねていったときには糸屋などをやって、相当豊かに暮らしておられたようだ。

また、今の明拝分教会の功労者の久保田登氏の場合が同じだ。久保田さんの母は明治十五年ごろ、宮森与三郎先生から神様の話を聞いて、とにかく人助け、人を喜ばせることに専念し、子供の登さんには、菓子一つ、鉛筆一本も買ってくれず、他人ばかりを喜ばせていたという。登さんは、京都へ丁稚に出され、相当苦勞させられた。

と云うと、「秘訣もクソもあるか。母親が施したものに利がついて、私のところに帰ってきただけのこっちゃん」と言っていた。一昨年、日本橋大教会長夫人からお聞きした話だが、新宿の成功者に森某という人がいる。その方は年は八十歳を過ぎた方だが、新居の成功者に森某という人がいる。その方は年は八十歳を過ぎた方だが、新居の成功者に森某という人がいる。その方は年は八十歳を過ぎた方だが、新居の成功者に森某という人がいる。

たのだが、ついにお会いできなかった。ところで、森という姓は、石上(いさかみ)の神主の森家か、今の天理市の北西の端の旧柳生村の森家ぐらいのもので、その他はあまり聞かない。柳生村の森家は、足達(あだて)照之丞(てるゆ)の父親の里である。そんな関係かと思うのだが、詳しいことは分らない。諸国を廻っていて、おぢばの昔の昔の信者の子孫の話を書くのは、大きい喜びである。

マンガ

おびや許し

養徳社

「おびや許し」をいただく方に。

マンガ
おびや許し

作画: 金巻とよじ
脚本: 山岡美秀

改訂版・32頁フルカラー
定価 200円+税

好評発売中

この「陽気だより」を支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。
 <書籍・陽気のご購入方法について>前払いをお願いしております。お近くのゆうちょ銀行に備え付けの振込用紙をお使い頂き、[住所、氏名、電話番号、書名(陽気希望月号)、冊数]を明記の上(振替口座番号00990-3-17694番 加入者名(株)養徳社)へご送金ください。手数料はお客様負担となります。ご入金を確認後、速やかに商品を発送させていただきます。ご不明な点は養徳社までお問い合わせ下さい。フリーダイヤル0120-920-398 養徳社 業務部